

アルミ二次合金、1年ぶり高値

原料高・中国産輸入減で

2020/10/16付 | 日本経済新聞 朝刊

保存 共有 印刷 他

自動車のエンジン部品に使うアルミニウム二次合金の取引価格が1年ぶりの高値をつけた。原料となるアルミスクラップ価格が上昇。中国の内需拡大に伴う中国産合金の輸入減少も重なり、指標品は6月の底値から5%高い。合金メーカーはフル生産だが、自動車向けを中心に復調傾向にある需要を国内品だけでは満たせず、当面は上昇基調が続くそう。

アルミ二次合金はアルミの国内総需要の3割強を賄う主力分野で、取引価格は自動車産業の景況感を敏感に映し出す。

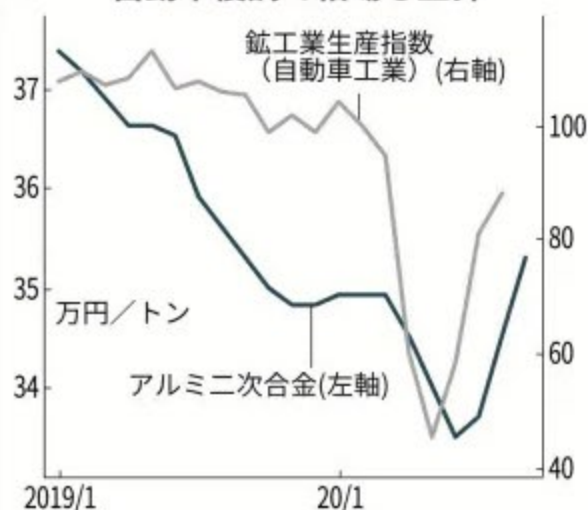
指標品で、用途の大半が自動車部品向けの

「AD12.1」は9月分の間屋卸値が1トン35万3千円前後と、前月から8千円（2%）上昇した。7月分から3カ月連続で上昇し、消費増税前で自動車販売が好調だった2019年9月分以来の高値となった。

主因は合金原料の品薄に伴う価格上昇だ。アルミ二次合金はアルミ板の端材や切削くずといったアルミスクラップにシリコンなどを混ぜてつくる。新型コロナウイルス禍に伴う製造業の活動低下で工場から出るアルミスクラップが減少。夏場以降、品薄感が強い状況が続いている。

非鉄スクラップ商社、橋本アルミ（大阪市）の橋本健一郎取締役は「原料を確保すべく合金メーカーなどが高値で買おうとしている」と話す。

自動車復調で相場も上昇



(注) 指数は季節調整済み、2015年=100
合金はAD12.1 (問屋卸値)

画像の拡大

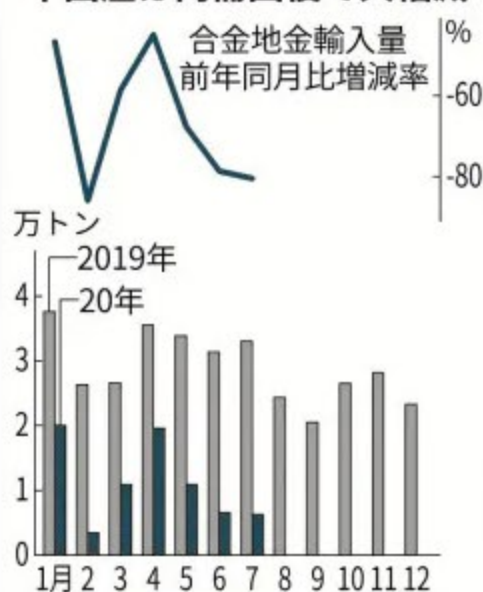
自動車向け需要が上向いた結果、中国から日本に向かう合金の量が減った。

日本アルミニウム合金協会（東京・台東）によると、4～7月の中国産合金の輸入量は合計4万3426トン。前年同期比で68%少ない。19年は平均で月3万トン弱の輸入があったが中国の生産が復調した今年6月以降は6千トン台にとどまっている。

中国ほどの勢いではないが、日本も自動車けん引する形で鋳工業生産指数が6月以降、上昇している。アルミ二次合金の需要も回復傾向だ。

合金メーカーは需要増にほぼフル生産で対応している。だが業界大手、大紀アルミニウム工業所の山岡正男常務執行役員は「中国品が減った分を国内の増産ですぐに補うのは困難。需給の逼迫が合金価格を押し上げている」と話す。合金の需給逼迫は当面解消されないとの見方が強く、価格も上昇基調が続くそう。

中国産は内需回復で大幅減



(出所) 日本アルミニウム合金協会

画像の拡大

ロンドン金属取引所（LME）のアルミ相場の上昇も相まって、アルミスクラップの代表品種で、アルミ圧延品の切断くずである「新切れ」の価格は現在1トン9万7500円前後。6月の底値から2倍の高値水準に跳ね上がった。合金メーカーは原料高を二次合金の取引価格に転嫁した。

中国産の合金の輸入減も値上がりにも響いた。

新型コロナの影響がいち早く和らいだ中国では自動車産業が大きく復調している。中国の9月の新車販売台数は前年同月比12.8%増え、6カ月連続で前年の実績を上回った。中国内の